公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療事故情報収集等事業
医療
安全情報

No.114　2016年5月

抗凝固剤・抗血小板剤の再開忘れ

観血的医療行為のために中止していた抗凝固剤または抗血小板剤の再開を忘れた事例が4件報告されています（集計期間:2012年1月1日～2016年3月31日）。この情報は、第34回報告書「個別のテーマの検討状況」（P135）で取り上げた内容を基に作成しました。

観血的医療行為のために中止していた抗凝固剤または抗血小板剤の再開を忘れたことにより、患者に影響があった事例が報告されています。

主な薬効	薬剤名	再開忘れに気付いた時期	背景
抗凝固剤	ワーファリン錠	観血的医療行為の１７日後	抗凝固剤の再開可能な時期になっても再開について検討されなかった。
	ワーファリン錠	観血的医療行為の１０日後	「薬剤全て再開」と指示したため、手術直前まで内服していた薬剤のみ再開し、それより前に中止していたワーファリン錠は再開されなかった。
	プラザキサカプセル	観血的医療行為中止の１４日後	腎生検が中止になった際、中止していたプラザキサカプセルの再開を忘れた。
抗血小板剤	バイアスピリン錠	観血的医療行為の９日後	「手術翌日よりバイアスピリン錠再開」の指示があったが、指示を見落とした。

医療事故情報収集等事業

医療事故情報収集等事業
医療安全情報

No.114　2016年5月

抗凝固剤・抗血小板剤の再開忘れ

事例 1

医師は手術のため、患者の抗凝固剤（ワーファリン錠）を中止した。術後出血のリスクを考え、抗凝固剤の再開時期を遅らせる予定であったが、そのまま再開していなかった。術後17日目、医師が患者に声をかけると反応がなかったため頭部CT検査を行ったところ、脳梗塞を認めた。

事例 2

手術の1週間前より抗血小板剤（バイアスピリン錠）を中止した。医師は入院時指示に「手術翌日よりバイアスピリン錠再開」と記載したが、看護師は指示を見落とし再開していなかった。術後9日目、患者が傾眠傾向であったため頭部MRI検査を行ったところ、多発性の脳梗塞を認めた。

事例が発生した医療機関の取り組み

- **術後指示に抗凝固剤や抗血小板剤の再開日の記入欄を追加する。**
- **病棟薬剤師は、術後の抗凝固剤や抗血小板剤の内服状況について、医師に情報提供する。**

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページに掲載されている報告書および年報をご覧ください。
http://www.med-safe.jp/

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではありません。

公益財団法人 日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
〒101-0061　東京都千代田区三崎町1-4-17　東洋ビル
電話：03-5217-0252（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.med-safe.jp/